



CIA 試験： 改訂の背景と内容



最新の実務に焦点を合わせた改訂

2018年3月

最新の実務に焦点を合わせた CIA 試験シラバスの改訂

公認内部監査人 (CIA) の称号を取得しようとすることは、内部監査専門職へのコミットメントを示すだけでなく、専門家としての継続的な成長と能力開発へのコミットメントを示すことでもあります。

内部監査人の専門資格として国際的に認知されている CIA には豊かな歴史があります。1974 年の CIA 創設時には、初めての試験が米国内の 41 か所で 654 名に対して実施されました。それ以降 141,000 名以上が CIA に認定され、今日では世界 150 か国の 800 か所以上の会場で CIA 試験が行われています。

グローバルなビジネス環境や内部監査専門職は、43 年前に CIA を導入して以来、確かに大きく変化しました。試験内容を最新かつ有効なものにするために、IIA は世界中の受験者、資格保持者、学識経験者、経験豊富な内部監査専門家、その他のステークホルダーから意見を募り、今日の内部監査専門家に求められる知識、技能および能力を明らかにするという方法で、CIA 職務分析調査を定期的に実施しています。直近では、2017 年の初めにこの調査を実施しました。調査に当たっては外部の心理測定専門家と契約して、CIA 職務分析調査の独立性を確保しました。調査の結果、現行の 3 パート構成の CIA 試験を改訂する必要性が確認されました。

このハンドブックは、皆様に CIA 試験改訂の背景と内容を理解していただくためのものです。本書をお読みいただくと、新しい試験について、特に何が変わり何が変わらないのか、さらに改訂がいつ皆様に影響するのかを詳しく知ることができます。皆様にこの改訂をお知らせできることをうれしく思います。新しい 3 パート CIA 試験は、これまでより一層明確で統一感があり、「内部監査の専門職的実施の国際基準」と整合していることがお分かりいただけることでしょう。

私たちは CIA 試験を向上させてくれた IIA グローバルの試験作成委員会の努力に特に感謝致します。また、有能なボランティアや国際調査に回答して下さった何千人もの方々にも感謝しており、IIA は素晴らしい資格を支え強化することができ、CIA は内部監査専門職の卓越性の基準としての地位を維持しています。

それでは、皆様のご健闘とご成功を心よりお祈り申し上げます。



内部監査人協会 (IIA)
事務総長兼 CEO
CIA, QIAL, CGAP, CCSA, CRMA
リチャード・F・チャンバース



内部監査人協会 (IIA)
公認資格審議委員会 委員長
CIA, QIAL, CRMA
ジェラルド・コックス

目次

1. 最新の内部監査実務の反映	4
1.1 CIA 試験改訂の背景.....	4
1.2 CIA 試験の主な改訂の内容	5
2. CIA パート 1：内部監査に不可欠な要素	6
2.2 CIA パート 1 シラバス改訂について.....	6
2.3 CIA パート 1 シラバス改訂内容.....	7
2.4 CIA パート 1 参考文献リスト.....	9
3. CIA パート 2：内部監査の実務	10
3.1 CIA パート 2 シラバス改訂について.....	10
3.2 CIA パート 2 シラバス改訂内容.....	11
3.3 CIA パート 2 参考文献リスト.....	14
4. CIA パート 3：内部監査のためのビジネス知識	15
4.1 CIA パート 3 シラバス改訂について	15
4.2 CIA パート 3 シラバス改訂内容.....	16
4.3 CIA パート 3 参考文献リスト.....	19
5. 現行 CIA 試験から改訂版への移行について.....	20
5.1 試験移行のスケジュール	20
5.2 合格点について.....	20
詳しい情報について.....	20

1. 改訂版 CIA 試験：最新の内部監査実務の反映

1.1. CIA 試験改訂の背景

ビジネスの世界は継続的な変化や新たなリスクに直面しており、内部監査人が組織体のニーズに応える方法に影響を与えています、そのため、内部監査人が専門的なアシュアランス業務およびコンサルティング業務を提供するために保持する必要がある知識とスキルは、進化し続けています。

現行の3パート構成のCIA試験の目的は、現在の内部監査実務において必要な国際的能力を満たす人を見極めることにあります。試験内容が最新かつ有効であることを確実にするために、IIAの国際試験作成チームと試験作成委員会はIIA公認資格審議委員会の監督のもとで、現行の3パートのCIA試験シラバスの包括的なレビューを行い、改訂案を策定しました。

IIAは2017年の初めに、上記のCIA試験シラバス改訂案ならびに現在の内部監査専門職に最も関連する知識、スキルおよび能力に関する意見を収集するために、国際的な職務分析調査を実施しました。この調査は、世界中のCIA試験の受験者、資格保持者、学識経験者、経験豊富な内部監査専門家およびその他のステークホルダーを対象としました。調査に当たっては外部の心理測定専門家と契約して、CIA職務分析調査の独立性を確保しました。職務分析調査は11の言語で実施され、3,000件を超える回答が寄せられました。調査の結果、現行の3パート構成のCIA試験改訂の必要性が確認され、改訂後の試験の項目、デザインおよび構成が明らかになりました。

試験シラバスとは何ですか？

試験のシラバスは、試験に含まれるトピックの概要を示したものです。CIA試験のパートごとにシラバスがあります。7～9、11～14、16～19ページを参照)。同時に3つのシラバスは、受験者が内部監査の能力を実証してCIAの称号を取得するために受ける試験の内容を把握するための手引きでもあります。

1.2.CIA 試験の主な改訂内容

CIA 試験は、現在の内部監査実務に関連する受験者の知識、スキルおよび能力を確認するために設計された 3 パート構成の試験であり、今後もそうあり続けるでしょう。

- CIA パート 1 — 内部監査に不可欠な要素
- CIA パート 2 — 内部監査の実務
- CIA パート 3 — 内部監査のためのビジネス知識

受験者には、以下が求められます。

- IIA の「専門職的实施の国際フレームワーク」(IPPF) に関する最新の知識を保持しており、適切に運用できる。
- IIA の「内部監査の専門職的实施の国際基準」に適合して、内部監査の個々の業務が最低限の監督のもとで行える。
- リスクとコントロールを評価するためのツールと技法が適用できる。
- 組織体のガバナンスに対する知識を示す。
- 内部監査に必要なビジネス感覚、IT、およびマネジメントの知識を適用する。

CIA 試験の各シラバスのトピックは、次のように改訂されました。

- 内部監査における現在の国際的実務を試験に反映する。
- 受験者が試験に合格するために保持しなければならない知識と技能を明確にする。
- CIA シラバス（特にパート 1 とパート 2）と IIA の「基準」とを一層整合させる。
- パート 3 の内容について、内部監査人が業務を行う上で保持しなければならない中核的な知識と技能に焦点を当て直す。

改訂された CIA シラバスは、CIA 試験の受験者が各試験トピックの内容に関連して示すことを期待される、認識レベルまたは知識の深さも示しています。

受験者は、次の 2 つの認識レベルのいずれかの試験コンセプトに基づいてテストされます。

- **基本レベル** — 受験者が関連する知識を記憶から引き出したり、考え方やプロセスの基本的理解力を示すレベル。
- **熟達レベル** — 受験者がコンセプト、プロセスまたは手続を適用し、規準に基づいて分析、評価および判断を行い、また結論や改善のための提言を策定するために様々な要素や材料をまとめるレベル。

次のページからは、改訂後の 3 つの CIA 試験シラバスに関する詳細が示されています。

各試験パートについて、現行のシラバスと改訂後のシラバスの大まかな比較、シラバスの改訂の要点、試験シラバスの全容、および受験者が改訂後の CIA 試験でテストされるコンセプトをより良く理解するために役立つ参考文献リストが示されています。

2.CIA パート 1：内部監査に不可欠な要素

改訂版の CIA パート 1 は、IIA の「専門職的实施の国際フレームワーク」(IPPF) と整合しており、次の 6 つのドメインがあります。(1) 内部監査の基礎、(2) 独立性と客観性、(3) 熟達した専門的能力および専門職としての正当な注意、(4) 品質のアシュアランスと改善のプログラム、(5) ガバナンス、リスク・マネジメントおよびコントロール、(6) 不正リスク。

パート 1 では、「内部監査の専門職的实施の国際基準」、特に属性基準 (1000、1100、1200 および 1300 番台) ならびに実施基準 2100 に関する受験者の知識、技能および能力をテストします。

2.1.CIA パート 1 シラバス改訂について

以下の図は、CIA パート 1 のシラバス改訂内容の概要を示したものです。例えば、現行の CIA パート 1 のシラバスには 3 つのドメインしかありませんが、改訂版には 6 つのドメインがあります。試験の設問数と試験時間は変更なく、125 問で 150 分です。

現行内容

- I. 必須のガイダンス (35-45%)
- II. インターナル・コントロール / リスク (25-35%)
- III. 監査業務実施のためのツールと技術 (25-35%)

改訂後内容

- I. 内部監査の基礎 (15%)
- II. 独立性と客観性 (15%)
- III. 熟達した専門的能力および専門職としての正当な注意 (18%)
- IV. 品質のアシュアランスと改善のプログラム (7%)
- V. ガバナンス、リスク・マネジメントおよびコントロール (35%)
- VI. 不正リスク (10%)

改訂後の CIA パート 1 試験シラバスに関連するその他の特筆すべき事項：

- 「内部監査の使命」や「内部監査の専門職的实施の基本原則」といった IPPF の要素が含まれます。
- このシラバスは、IIA の属性基準と一層整合した内容となっています。
- パート 1 試験は、個々のアシュアランス業務と個々のコンサルティング業務の違いを扱っています。
- パート 1 試験は、「基準」への適合または不適合の開示についても扱っています。
- 最大のドメインは、「ガバナンス、リスク・マネジメントおよびコントロール」で、パート 1 試験全体の 35% を占めています。
- パート 1 試験の一部では、概念の基本レベルの理解が問われており、他の部分では、熟達レベルの知識、スキルおよび能力が問われています。

2.2.CIA パート 1 シラバス改訂内容

ドメイン		認識レベル	
内部監査の基礎（15%）			
I.	A	IIA の「内部監査の使命」、「内部監査の定義」および「内部監査の専門職的实施の基本原則」、ならびに内部監査部門の目的、権限および責任について理解する。	熟達レベル
	B	「内部監査基本規程」の要件（構成要素、取締役会による承認、規程の周知、等）について説明する。	基本レベル
	C	内部監査部門が提供するアシュアランス業務とコンサルティング業務の違いを理解する。	熟達レベル
	D	IIA の「倫理綱要」への適合を示す。	熟達レベル
独立性と客観性（15%）			
II.	A	内部監査部門の組織上の独立性について理解する（独立性の重要性、職務上の報告等）。	基本レベル
	B	内部監査部門の独立性が損なわれていないかどうか識別する。	基本レベル
	C	個々の内部監査人の客観性が損なわれているかどうかを含めて、個々の内部監査人の客観性を評価し、維持する。	熟達レベル
	D	客観性を促進する方針を分析する。	熟達レベル
熟達した専門的能力および専門職としての正当な注意（18%）			
III.	A	内部監査部門の諸活動の責任を果たすために（開発するか、獲得するかして）必要な「知識、技能およびその他の能力」を理解する。	基本レベル
	B	技術的スキルやソフト・スキル（コミュニケーション・スキル、批判的思考、説得や交渉、コラボレーション・スキルなど）を含め、個人の職責を果たすために内部監査人が必要とする知識と能力を示す。	熟達レベル
	C	専門職としての正当な注意を示す。	熟達レベル
	D	継続的な専門的能力の開発を通じて、個々の内部監査人の能力を示す。	熟達レベル

ドメイン		認識レベル	
IV.	品質のアシュアランスと改善のプログラム (7%)		
	A	品質のアシュアランスと改善のプログラムの要件（内部評価、外部評価、その他）を説明する。	基本レベル
	B	品質のアシュアランスと改善のプログラムの結果を、取締役会またはその他の統治機関に報告するための要求事項を説明する。	基本レベル
	C	「内部監査の専門職的実施の国際基準」への適合および不適合の適切な開示を識別する。	基本レベル
V.	ガバナンス、リスク・マネジメントおよびコントロール (35%)		
	A	組織体のガバナンスについての概念を説明する。	基本レベル
	B	組織体の文化がコントロール環境全体ならびに内部監査の個々の業務のリスクおよびコントロールに及ぼす影響を認識する。	基本レベル
	C	組織体の倫理およびコンプライアンス関連の課題、違反の疑い、ならびに対応状況について認識し、理解する。	基本レベル
	D	企業の社会的責任について説明する。	基本レベル
	E	リスクとリスク・マネジメントの基本的な概念について理解する。	熟達レベル
	F	組織体にふさわしい国際的に認められているリスク・マネジメントのフレームワーク（COSO - ERM、ISO31000、その他）を説明する。	基本レベル
	G	様々なプロセスや部門・機能におけるリスク・マネジメントの有効性を検証する。	熟達レベル
	H	組織体のリスク・マネジメント・プロセスにおける、内部監査部門の役割の適切性を認識する。	基本レベル
	I	インターナル・コントロールの概念とコントロール手段の種類を理解する。	熟達レベル
	J	組織体にふさわしい国際的に認められているインターナル・コントロールのフレームワーク（COSO 等）を適用する。	熟達レベル
K	インターナル・コントロールの有効性と効率性を検証する。	熟達レベル	

ドメイン		認識レベル	
VI.	不正リスク（10%）		
	A	不正リスクおよび不正の種類を理解し、個々の内部監査業務を実施する際に不正リスクへの特別な配慮が必要かどうか判断する。	熟達レベル
	B	不正発生の可能性を評価し（レッド・フラッグ等）、どのように組織体不正リスクを発見し管理するかについて評価する。	熟達レベル
	C	不正を防止し発見するためのコントロール手段や、組織体の不正に対する意識を向上させるための教育活動を推奨する。	熟達レベル
D	フォレンジック監査（インタビュー、調査、テスト、その他）に関連する技法と内部監査の役割を理解する。	基本レベル	

2.3. パート 1 参考文献リスト

- IPPF – Mission, Definition of Internal Auditing, Core Principles, Code of Ethics, Standards, Implementation Guides, and Practice Guides (including GTAGs), by The IIA
(邦訳書：『専門職的実施の国際フレームワーク -2017 年版 -』^{注1} 日本内部監査協会発行)
- Internal Auditing Assurance and Advisory Services (4th Edition), by Urton Anderson, Michael Head, and Sridhar Ramamoorti
(邦訳書：『内部監査：アシュアランス業務とアドバイザリー業務（仮題）』
日本内部監査協会発行 発行日未定)
- Sawyer's Guide for Internal Auditors, by Larry Sawyer
(邦訳書：『ソイヤーの内部監査 - 現代内部監査の実践』日本内部監査協会発行〔第 5 版翻訳版〕
〔第 1、第 3 分冊は販売終了〕)
- Quality Assessment Manual, by The IIA
(邦訳書：『新 内部監査の品質評価マニュアル』〔2013 年版翻訳版〕日本内部監査協会発行)
- Enterprise Risk Management Framework, by COSO
(邦訳書：『全社的リスクマネジメントー戦略およびパフォーマンスとの統合』
同文館発行〔2018 年 4 月 4 日初版発行〕)
- Internal Control – Integrated Framework, by COSO
(邦訳書：『内部統制の統合的フレームワーク』日本公認会計士協会出版局発行)
- The Global Internal Audit Competency Framework, by The IIA
(邦訳は『月刊監査研究』2016 年 4 月号掲載)
- Position Paper “The Three Lines of Defense in Effective Risk Management and Control,”
by The IIA
- Understanding Management, by Richard Daft and Dorothy Marcic
- 内部監査および関連トピックに関する現行の様々な資料

注 1：同邦訳書には GTAG を含むプラクティス・ガイドは含まれていません。日本内部監査協会会員ページに一部翻訳資料を掲載しております。

※ 邦訳書は 2018 年 3 月時点で入手可能な資料を掲載しています。

3.CIA パート 2：内部監査の実務

改訂版 CIA パート 2 には、次の 4 つのドメインがあります。(1) 内部監査部門の管理、(2) 個々の業務に対する計画の策定、(3) 個々の業務の実施、(4) 個々の業務の結果の伝達及び進捗状況のモニタリング。パート 2 では、特に実施基準 (2000、2200、2300、2400、2500 および 2600 番台) ならびに現在の内部監査実務に関連する知識、技能および能力をテストします。

3.1.CIA パート 2 シラバス改訂について

以下の図は、CIA パート 2 のシラバス改訂内容の概要を示したものです。例えば、現行の CIA パート 2 のシラバスには 3 つのドメインしかありませんが、改訂版には 4 つのドメインがあります。試験の設問数と試験時間は変更なく、100 問で 120 分です。

現行内容

- I. 内部監査部門の運営管理 (40-50%)
- II. 個々の監査業務の管理 (40-50%)
- III. 不正リスクとコントロール (5-15%)

改訂後内容

- I. 内部監査部門の管理 (20%)
- II. 個々の業務に対する計画の策定 (20%)
- III. 個々の業務の実施 (40%)
- IV. 個々の業務の結果の伝達および進捗状況のモニタリング (20%)

改訂後の CIA パート 2 試験シラバスに関連するその他の特筆すべき事項：

- このシラバスは、IIA の実施基準と一層整合した内容となっています。
- パート 2 試験は、残存リスクの評価とリスク受容の伝達に関する内部監査部門長の責任を扱っています。
- 最大のドメインは、「個々の業務の実施」で、パート 2 試験全体の 40% を占めています。
- パート 2 試験の一部では、概念の基本的レベルの理解が問われており、他の部分では、熟達レベルの知識、スキルおよび能力が問われています。

3.2.CIA パート 2 シラバス改訂内容

ドメイン		認識レベル
内部監査部門の管理 (20%)		
1. 内部監査部門の運営		
A	内部監査部門の業務の計画策定、運営、指揮およびモニタリングに関する方針と手続について説明する。	基本レベル
B	内部監査部門の管理業務（予算編成、資源確保、採用、人員配置、その他）を理解する。	基本レベル
2. リスク・ベースの内部監査計画の策定		
A	実施する可能性のある個々の内部監査業務の源となるものを識別する。（監査対象領域、監査周期に関する要件、経営陣からの要請、規制当局の命令、関連する市場および業界の傾向、最近の課題、その他）	基本レベル
B	リスクを評価し、リスク評価の結果に基づき個々の内部監査業務に優先順位付けするためのリスク・マネジメントのフレームワークを識別する。	基本レベル
C	個々のアシュアランス業務の種類を理解する。（リスクとコントロールの評価、第三者および契約遵守状況に関する監査、セキュリティとプライバシー、業務執行状況および品質の監査、重要業績評価指標（KPI）、業務運営に関する監査、財務上および規制遵守状況に関する監査）	熟達レベル
D	助言と洞察を提供するために設計された個々のコンサルティング業務の種類を理解する。（研修、システム設計、システム開発、デュー・ディリジェンス、プライバシー、ベンチマーキング、インターナル・コントロール評価、プロセス・マッピング、その他）	熟達レベル
E	内部監査の活動と、外部監査人、規制監督当局、および内部の他のアシュアランス部門・機能の活動との連携、ならびに他のアシュアランス提供者に依拠する可能性について説明する。	基本レベル

ドメイン		認識レベル	
3. 最高経営者および取締役会への伝達と報告			
I.	A	内部監査部門長が年間監査計画を最高経営者および取締役会に伝達し、取締役会の承認を求めることを理解する。	基本レベル
	B	内部監査部門長が取締役会に報告すべき重大なリスク・エクスポージャーならびにコントロールおよびガバナンス上の問題を識別する。	基本レベル
	C	内部監査部門長が組織体のインターナル・コントロールおよびリスク・マネジメントのプロセスの全般的な有効性について最高経営者および取締役会に報告することを理解する。	基本レベル
	D	内部監査部門長が最高経営者および取締役会に伝達する内部監査の重要業績評価指標を理解する。	基本レベル
個々の業務に対する計画の策定 (20%)			
1. 個々の業務に対する計画の策定			
II.	A	個々の業務の目標、評価規準および個々の業務の範囲を決定する。	熟達レベル
	B	主要なリスクおよびコントロールを確実に識別できるように個々の業務に対する計画を策定する。	熟達レベル
	C	各監査領域について詳細なリスク評価を行う。その際に、リスクおよびコントロールの諸要素についての評価および優先順位付けを含める。	熟達レベル
	D	個々の業務の手続を決定し、個々の業務の作業プログラムを作成する。	熟達レベル
	E	個々の業務に必要な要員および監査資源のレベルを決定する。	熟達レベル

ドメイン		認識レベル
個々の業務の実施 (40%)		
1. 情報の収集		
A	個々の業務の領域に関する事前調査の一環として、関連する情報を収集し検討する。(前回監査の報告およびデータをレビューする、ウォークスルーおよびインタビューを実施する、観察を行う、その他)	熟達レベル
B	個々の業務の領域に関する事前調査の一環として、チェックリストおよびリスクとコントロールの質問票を作成する。	熟達レベル
C	適切なサンプリング (非統計的サンプリング、判断サンプリング、発見サンプリング、その他) および統計的分析の技法を適用する。	熟達レベル
2. 分析および評価		
A	電子化された監査ツールおよび技法 (データマイニングおよびデータ抽出、継続的モニタリング、自動監査調書、埋込型監査モジュール、その他) を使用する。	熟達レベル
B	潜在的な監査証拠ソースの、関連性、十分性および信頼性を評価する。	熟達レベル
C	適切な分析的手法およびプロセス・マッピング技法 (プロセス識別、ワークフロー分析、プロセスマップの作成および分析、スパゲティ・マップ、RACI図、その他) を適用する。	熟達レベル
D	分析的レビュー技法 (比率推定、差異分析、予算対実績、傾向分析、他の合理性テスト、ベンチマーキング、その他) を決定して適用する。	基本レベル
E	結論および個々の業務の結果を裏付けるために、関連する情報の監査調書および文書を作成する。	熟達レベル
F	個々の業務の結論を要約してまとめる。そこには、リスクおよびコントロールの評価を含める。	熟達レベル
3. 個々の業務の監督		
A	個々の業務の監督における主要な活動 (業務分担を調整する、監査調書をレビューする、監査人の業績を評価する、その他) を識別する。	基本レベル

ドメイン		認識レベル
個々の業務の結果の伝達および進捗状況のモニタリング (20%)		
1. 個々の業務の結果の伝達およびリスク受容		
A	個々の業務の対象部署（またはコンサルティング業務における依頼者）との事前の伝達を調整する。	熟達レベル
B	伝達の品質（正確な、客観的な、明確な、簡潔な、建設的な、完全な、および適時な）ならびに要素（目標、範囲、結論、改善のための提言、および改善措置の計画）を示す。	熟達レベル
C	個々の業務の進捗状況について中間報告を行う。	熟達レベル
D	組織体の価値を向上させ保全するために改善のための提言を作成する。	熟達レベル
IV. E	監査終了会議の実施、監査報告書の作成（原稿作成、レビュー、承認、配付）および経営管理者からの回答の入手を含めた、個々の業務の伝達と報告のプロセスを説明する。	基本レベル
F	残存リスクの評価に関する内部監査部門長の責任を説明する。	基本レベル
G	（組織体にとって受容できないのではないかとされる水準のリスクを経営管理者が受容している場合には）リスク受容を伝達するプロセスを説明する。	基本レベル
2. 進捗状況のモニタリング		
A	経営管理者による改善措置計画を含めた、個々の業務の成果物を評価する。	熟達レベル
B	経営管理者および取締役会に伝達した個々の監査業務の結果の対応状況のモニタリングおよびフォローアップを管理する。	熟達レベル

3.3. パート 2 参考文献リスト

- IPPF – Mission, Definition of Internal Auditing, Core Principles, Code of Ethics, Standards, Implementation Guides, and Practice Guides (including GTAGs), by The IIA
（邦訳書：『専門職的実施の国際フレームワーク -2017 年版 -』^{注1} 日本内部監査協会発行）
- Internal Auditing Assurance and Advisory Services (4th Edition), by Urton Anderson, Michael Head, and Sridhar Ramamoorti
（邦訳書：『内部監査：アシュアランス業務とアドバイザリー業務（仮題）』
日本内部監査協会発行 発行日未定）
- Sawyer's Guide for Internal Auditors, by Larry Sawyer
（邦訳書：『ソイヤーの内部監査 - 現代内部監査の実践』日本内部監査協会発行〔第 5 版翻訳版〕
〔第 1、第 3 分冊は販売終了〕）
- Position Paper “The Role of Internal Auditing in Resourcing the Internal Audit Activity,”
by The IIA
- 内部監査および関連トピックに関する現行の様々な資料

注 1：同邦訳書には GTAG を含むプラクティス・ガイドは含まれていません。日本内部監査協会会員ページに一部翻訳資料を掲載しております。

※ 邦訳書は 2018 年 3 月時点で入手可能な資料を掲載しています。

4.CIA パート 3：内部監査のためのビジネス知識

改訂版 CIA パート 3 には、次の 4 つのドメインがあります。(1) ビジネス感覚、(2) 情報セキュリティ、(3) 情報技術 (IT)、(4) 財務管理。パート 3 では、特にこのような中核的なビジネス概念に関連した知識、技能および能力をテストします。

4.1.CIA パート 3 シラバス改訂について

以下の図は、CIA パート 3 のシラバス改訂内容の概要を示したものです。例えば、現行の CIA パート 3 のシラバスには 8 つのドメインがありますが、改訂版には 4 つのドメインしかありません。試験の設問数と試験時間は変更なく、100 問で 120 分です。

現行内容

- I. ガバナンス / ビジネス倫理 (5-15%)
- II. リスク・マネジメント (10-20%)
- III. 組織構造 / ビジネス・プロセスおよびリスク (15-25%)
- IV. コミュニケーション (5-10%)
- V. 経営管理 / リーダーシップ原則 (10-20%)
- VI. IT / 事業継続 (15-25%)
- VII. 財務管理 (10-20%)
- VIII. グローバル・ビジネス環境 (0-10%)

改訂後内容

- I. ビジネス感覚 (35%)
- II. 情報セキュリティ (25%)
- III. 情報技術 (IT) (20%)
- IV. 財務管理 (20%)

改訂後の CIA パート 3 試験シラバスに関連するその他の特筆すべき事項：

- パート 3 試験で扱うトピックの数は、内部監査にとって最も重要な中核的な分野にかなり充てられました。
- このシラバスは、データ分析に関する新しいサブ・ドメインを取り上げています。
- パート 3 試験では、情報セキュリティの部分が拡大し、サイバーセキュリティのリスクや最新のテクノロジーの実態といった追加のトピックが含まれています。
- 最大のドメインは「ビジネス感覚」で、パート 3 試験全体の 35% を占めています。
- パート 3 試験の一部では、概念の基本レベルの理解が問われており、他の部分では、熟達レベルの知識、技能および能力が問われています。

4.2.CIA パート 3 シラバス改訂内容

ドメイン		認識レベル	
ビジネス感覚 (35%)			
1. 組織体の目標、行動および業績			
I.	A	戦略計画策定プロセスおよび主要な行動（目標の設定、グローバル化および競争の検討、組織体の使命および価値観への適合、その他）を説明する。	基本レベル
	B	一般的な業績測定方法（財務、業務、定性対定量、生産性、品質、効率性、有効性、その他）を検証する。	熟達レベル
	C	組織行動（組織における個人、グループ、組織の行動方法、その他）および様々な業績管理技法（特徴、組織政治、モチベーション、職務設計、報酬、作業工程、その他）を説明する。	基本レベル
	D	経営管理者による次の様々な行動への有効性を説明する。指揮し、メンタリングし、人々を導き、組織コミットメントを確立し、起業能力を示す。	基本レベル
2. 組織構造とビジネスプロセス			
	A	組織構造の違いによるリスクとコントロールへの影響を評価する。（中央集権型対分権型、フラット構造対伝統的構造、その他）	基本レベル
	B	一般的なビジネス・プロセス（人事、調達、製品開発、販売、マーケティング、ロジスティクス、外部委託したプロセスの管理、その他）におけるリスクとコントロールの関係を検証する。	熟達レベル
	C	プロジェクト管理技法（プロジェクトの計画および範囲、時間/チーム/資源/コスト管理、変更管理、その他）を識別する。	基本レベル
	D	契約の種類と要素（形式、対価、片務、双務、その他）を理解する。	基本レベル

ドメイン		認識レベル	
3. データ分析			
I.	A	データ分析、データの種類、データのリソース、および内部監査においてデータ分析を用いることの価値を説明する。	基本レベル
	B	データ分析のプロセス（質問を明確にする、関連するデータを取得する、データのクリーニングや正規化をする、データを分析する、結果を伝達する）を説明する。	基本レベル
	C	データ分析手法（異常値検知、診断解析、予測解析、ネットワーク解析、テキスト解析、その他）の内部監査への適用について理解する。	基本レベル
情報セキュリティ（25%）			
1. 情報セキュリティ			
II.	A	一般的な物理的セキュリティ・コントロールの種類（カード、鍵、生体認証、その他）の違いを理解する。	基本レベル
	B	様々な形式のユーザ認証および承認コントロール手段（パスワード、2段階認証、生体認証、デジタル署名、その他）の違いを理解し、潜在的なリスクを識別する。	基本レベル
	C	様々な情報セキュリティ・コントロール手段（暗号化、ファイアウォール、アンチウイルス、その他）の目的および使用方法を説明する。	基本レベル
	D	データ保護法令、ならびにデータ保護法令がデータ・セキュリティ方針および実務へ及ぼす潜在的な影響を理解する。	基本レベル
	E	最新のテクノロジーの実態およびセキュリティへの影響（BYOD（私的デバイスの活用）、スマート・デバイス、IOT（モノのインターネット、その他））を理解する。	基本レベル
	F	既存および最新のサイバー・セキュリティのリスク（ハッキング、海賊行為、改竄、身代金ウイルス攻撃、フィッシング攻撃、その他）を理解する。	基本レベル
	G	サイバー・セキュリティおよび情報セキュリティ関連の方針を説明する。	基本レベル
情報技術（IT）（20%）			
1. アプリケーションおよびシステム・ソフトウェア			
III.	A	システム開発ライフサイクルと納入における中核的な活動（要件定義、設計、開発、検証、デバッグ、配備、維持、その他）、ならびにプロセス全体を通じた変更管理の重要性を理解する。	基本レベル

ドメイン		認識レベル	
III.	B	基本的なデータベース用語（データ、データベース、レコード、オブジェクト、フィールド、スキーマ、その他）およびインターネット用語（HTML、HTTP、URL、ドメイン名、ブラウザ、クリックスルー、電子データ交換（EDI）、クッキー、その他）を説明する。	基本レベル
	C	ソフトウェア・システム（顧客関係管理（CRM）システム、エンタープライズ・リソース・プランニング（ERP）システム、ガバナンス・リスク・コンプライアンス（GRC）システム、その他）の主要な特徴を識別する。	基本レベル
	2.IT インフラストラクチャーおよび IT コントロール・フレームワーク		
	A	基本的なITインフラおよびネットワーク（サーバ、メインフレーム、クライアント・サーバ・コンフィギュレーション、ゲートウェイ、ルータ、LAN、WAN、VPN、その他）の概念を説明し、潜在的なリスクを識別する。	基本レベル
	B	ネットワーク管理者、データベース管理者およびヘルプ・デスクの運営上の役割を理解する。	基本レベル
	C	ITコントロール・フレームワーク（COBIT、ISO27000、ITIL、その他）および基本的なITコントロールの目的と利用方法を理解する。	基本レベル
	3. 災害復旧		
	A	災害復旧計画サイトの概念（ホット、ウォーム、コールド、その他）を説明する。	基本レベル
	B	システムおよびデータのバックアップの目的を説明する。	基本レベル
	C	システムおよびデータの復旧手続の目的を説明する。	基本レベル
IV.	財務管理（20%）		
	1. 財務会計および財務		
	A	財務会計の概念および基本原則（財務諸表の種類、および債券、リース、年金、無形資産、研究開発等の用語）を識別する。	基本レベル
	B	高度な最新の財務会計の概念（連結、投資、公正価値、パートナーシップ、外貨取引、その他）を理解する。	基本レベル
C	財務分析（水平分析および垂直分析、ならびに活動、収益性、流動性、レバレッジ、その他に関する諸比率）を理解する	熟達レベル	

ドメイン		認識レベル	
IV.	D	収益サイクル、流動資産の管理活動と会計、サプライ・チェーン・マネジメント（在庫評価、買掛金勘定を含む）を説明する。	基本レベル
	E	資本予算、資本構成、基本的な税制、および移転価格を説明する。	基本レベル
	2. 管理会計		
	A	管理会計に関する一般的な概念（損益分岐点分析、予算編成、費用配賦、費用便益分析、その他）を説明する。	基本レベル
	B	様々な原価計算制度（全部、変動、固定、活動基準、標準、その他）の違いを理解する。	基本レベル
C	様々な原価（関連原価、無関連原価、増分費用、その他）の違いおよび意思決定におけるそれぞれの活用方法を理解する。	基本レベル	

4.3. パート 3 参考文献リスト

- IPPF – Mission, Definition of Internal Auditing, Core Principles, Code of Ethics, Standards, Implementation Guides, and Practice Guides (including GTAGs), by The IIA
(邦訳書:『専門職的実施の国際フレームワーク -2017 年版-』^{注1} 日本内部監査協会発行)
- Internal Auditing Assurance and Advisory Services (4th Edition), by Urton Anderson, Michael Head, and Sridhar Ramamoorti
(邦訳書:『内部監査：アシュアランス業務とアドバイザー業務（仮題）』
日本内部監査協会発行 発行日未定)
- Sawyer's Guide for Internal Auditors, by Larry Sawyer
(邦訳書:『ソイヤーの内部監査 - 現代内部監査の実践』日本内部監査協会発行〔第5版翻訳版〕
〔第1、第3分冊は販売終了〕)
- Enterprise Risk Management Framework, by COSO
(邦訳書:『全社的リスクマネジメントー戦略およびパフォーマンスとの統合』
同文館発行〔2018年4月4日初版発行〕)
- Internal Control – Integrated Framework, by COSO
(邦訳書:『内部統制の統合的フレームワーク』日本公認会計士協会出版局発行)
- Understanding Management, by Richard Daft and Dorothy Marcic
- Project Management Body of Knowledge (PMBOK) Guide, by Project Management Institute
(邦訳書:『プロジェクトマネジメント知識体系ガイド (PMBOK ガイド)』プロジェクトマネジメント協会発行)
- Performance Auditing: Measuring Inputs, Outputs, and Outcomes, by Stephen Morgan, Ronell Raaum, and Colleen Waring
- Auditing Human Resources, by Kelli Vito
- Auditing the Procurement Function by David O'Regan
- Contract and Commercial Management: The Operational Guide, by IACCM

注1：同邦訳書には GTAG を含むプラクティス・ガイドは含まれていません。日本内部監査協会会員ページに一部翻訳資料を掲載しております。

※ 邦訳書は 2018 年 3 月時点で入手可能な資料を掲載しています。

- Data Analytics: Elevating Internal Audit's Value, by Warren Stippich Jr. and Bradley Preber
- Implementing the NIST Cybersecurity Framework, by ISACA
- Information Technology Control and Audit, by Sandra Senft, Frederick Gallegos, and Aleksandra Davis
- IT Auditing: Using Controls to Protect Information Assets, by Chris Davis, Mike Schiller, and Kevin Wheeler
- Principles of Information Security, by Michael Whitman and Herbert Mattord
- Accounting Principles, by Jerry Weygandt, Paul Kimmel, and Donald Kieso
- 内部監査および関連トピックに関する現行の様々な資料

5. 現行 CIA 試験から改訂版への移行について

現行 CIA 試験は、2019 年 1 月にまず英語から（改訂版試験シラバスに基づく）改訂版に移行します。改訂版シラバスに基づく日本語試験の開始時期は、日本内部監査協会のウェブサイトでご案内致します。改訂版シラバスに基づく英語以外の言語の試験に関する最新情報は、次のサイトを参照してください。http://www.theiia.org/updatecia

5.1. 試験移行のスケジュール

2018												2019											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
現行 CIA 試験（英語）												改訂版 CIA 試験（英語）											
現行 CIA 試験（英語以外）												改訂版 CIA 試験（英語以外）											

5.2. 合格点について

IIA は、改訂版 CIA シラバスに基づき、ベータテストおよび基準設定調査を行います。IIA の公認資格審議委員会は、この調査結果を CIA 試験の合格点決定に使用します。CIA 試験パートごとの素点（正答数）は、250 から 750 までのポイントに換算されます。CIA 試験の合格には、換算ポイントで 600 以上が必要となります。

詳しい情報について

- IIA の次のウェブサイトをご参照ください。
http://www.theiia.org/updatecia
- 上記ウェブサイトの F A Q もご参照ください。
- 日本内部監査協会の事務局までお問合せください。
 - » 日本内部監査協会 電話：03-6214-2232
 - » Email: cia-mailassistance@iiajapan.com